

平成 29 年度第 1 回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時 平成 29 年 9 月 29 日（金）午後 3 時 30 分～5 時
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センターにこゝふる
- 委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 15 名
(名簿【0-0】のとおり)
- 市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 28 名
(名簿【0-1】のとおり)
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0 人

(午後 3 時 30 分 開会)

1 開会 (進行：コミュニティ推進課長)

2 挨拶 (市民部長)

3 委員紹介

4 委員長、副委員長の選出について

武田真理子委員を委員長に、齋藤 建委員を副委員長に選出

5 意見交換等

- (1) 地域コミュニティ推進計画の概要について
- (2) 市のコミュニティ施策について
- (3) 「地域コミュニティ推進計画」の推進に向けた取組状況について

(事務局) 資料 1～3 により事務局説明

(委員長) 平成 25 年 3 月に策定したコミュニティ基本方針、平成 28 年に策定したコミュニティ推進計画において、地域特性が多様な鶴岡市の地域コミュニティをどう考えていくか、どのような方向性に向かっていくか、加えて行政がどのような支援をしていくかについての説明をいただいた。その上で市のコミュニティ施策の現状と住民自治組織の取組や、行政の取組について、質問やお気づきの点、日頃感じていること、ご意見等の発言をいただきたい。

(H 委員) 資料1の4ページ右下にステップアップ事業補助金「まち・ひと・しごと創生推進事業」と記載があるが、こちらは国の政策に基づく事業なのか。もしそうであるならば、この事業によって鶴岡市にどのくらいの交付金等が入ってきているのか伺いたい。また、国の政策に基づいている事業であればステップアップ事業の補助金の上限を増額することはできないのか。

(幹事：政策企画課長) 国では地方創生を支援するため「まち・ひと・しごと創生事業」を行っている。鶴岡市は独自に地方版として「鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年度に計画し取り組んでいる。まちの賑わい、ひとの交流づくり、その定着のためにしごとを作っていくといったところで、子育てしやすい環境などを含め4つの重点項目を作って取り組んでいる。その中で該当する事業については、国の加速化交付金・推進交付金を充当している。国の交付金については、鶴岡市全体の金額を調べた後に正確な額をお伝えしたいと思うが、平成27年度は消費喚起ということで交付金的な事業、いわゆる商品券的・旅行券的な事業を行った。また、先行型交付金として、ロケットでいえば発射台を作るための先行的な事業を行った。その次に加速化交付金ということで、それらを軌道に乗せて、今、推進交付金に取り組んでおり、3つの交付金を合わせて5～6億円の規模であったと記憶しているが、交付金の正確な額やコミュニティ推進課の事業でどれくらいの財源を活用しているかについても確認しお伝えできると思う。

(委員長) 具体的な情報は後ほどということになるが、委員のご意見としては、せっかく国の交付金も入ってくるならば、ステップアップ事業補助金についてももう少し上限額を上げられないかという意見でよろしかったか。

(H 委員) 付け加えると、補助金の増額と同時に補助率についても全額補助もしくは補助率を緩めるなどの検討をいただきたい。単位自治組織でステップアップ事業補助金を活用するとなると、どうしても自己負担分の資金面が問題となってくる。住民主体で地域の活性化を推進していく意欲的な自治会には手厚い支援が必要ではないか。補助金は3年で打ち切りとなっているが、評価をしながら引き続き支援が必要な場合は延長するなど考慮すべきではないか。

(委員長) 住民主体といっても進捗の度合いには差があるため、その点にも配慮しながらステップアップ事業補助金の見直しができるのではないかというご意見であった。これに関連した施策について、あるいは地域の現状について様々な視点でご質問・ご意見をいただきたい。

(J 委員) 資料1で地域ビジョンが挙げられているが、社会福祉協議会の地域福祉活動計画

でも前回の5年間の計画時に合併後の鶴岡の地域性はかなり違うということで、旧町村エリアに作ろうという考えで進めている。旧町村のプランについてはかなり住民の皆さんから意見をいただいて作ってきたが、鶴岡地域については学区地区社協の単位で作っていきたいという気持ちもありつつまだ進んでいないのが現状。一部についてはプランと言わず調査活動をして重点課題を掲げている地域もあるが、実は今回の地域福祉活動計画では支え合いプランを進めるうえでせつかくコミュニティ推進課の方で地域ビジョンを策定しようという計画が盛り込まれているので、できれば一緒に地域福祉についても盛り込んでもらい、社協の方でも関わっていただければと考えている。一点質問があるのだが、この地域ビジョンは藤島地区自治振興会の齋藤会長の方で策定されたというのはお聞きしていたが、他の地域でどのような動きがあるのか、これから動き出そうとしている地域があれば伺いたい。

(委員長) 全体をまとめて把握されていることを教えていただきたい。その後、皆さんの地域での事例についてもお聞きしたい。

(事務局) 鶴岡地域は、ワークショップ等を重ねている地域やアンケートを実施している地域はあるが、まだはっきりと形にしたものは作成されていない。六学区は地域づくり研修会を長年実施し、町内会の取り組みの事例発表等を行い情報共有している。加茂地区は、これから地域振興ビジョン策定のための組織の立ち上げを検討している。三瀬地区は組織を立ち上げ、今後どのように策定していくかの検討を始めた。一学区は、地域福祉を考えた研修会を実施している。温海地域は、過疎地域集落対策事業として10集落が集落振興ビジョンを策定し取組を進めている。平成28年度には越沢自治会で活性化委員会を立ち上げ、アンケート調査やワークショップを行い活性化ビジョンを作成している。

(J 委員) コミュニティの地域づくりと福祉サイドの地域福祉は、かなり被る部分がある。市社会福祉協議会、学区地区社協や各旧町村の地域福祉協議会でニーズ把握をかなりしてきたので、ぜひ今後ビジョンを策定する際には福祉サイドと連携し、一緒に取り組んでいけたら良いと思っている。

(委員長) 地域ビジョンは形が決まっているものではなく、様々な人が参画の元、現状や課題を把握して将来の方向性を決め、取組を進めるものと解釈している。皆さんが関わっている地域で、そのような動きがあれば情報提供いただきたい。

(A 委員) 地域ビジョンを作る前提までが非常に重要で、住民がどういう気持ちを持っているのかを把握し、それを集約・解析した上で具体的な計画に落とししていくわけだが、一つの柱として高齢者支援のネットワークの構築が挙げられる。これをやるには、困っている

こと、例えば除雪、買い物、あるいは地域交通、自分たちで助け合って交通の利便性を高めるなどの事業を実施し、安否確認なども含めながら高齢者のネットワークを構築していくという枠組みが必要。また、子育て世代の交流基盤の構築も一本の柱だと思っている。それには学習塾、宿題であったり、あるいはスポーツ交流で出会いの場づくりを行ったり、あるいは安全に対する意識を高めたり、そういった子育て世代の若い方々を我々の生活に取り込んで活動を一緒にやっていく基盤を作ることが必要。この二つが大きな柱かと思っている。たくさんの柱を作っても手が付けられないため、具体的にやれることを積み上げていくというのが一番いいのではないかと。資料2の2～3ページ目に鶴岡市に地域コミュニティ施策について①～⑨までそれぞれ支援事業という観点で記載されている。全体として支援しますという言葉で閉じられているが、支援するということが間接的な関与なのか直接的に行政がリーダーシップを取って施策を住民の方々にやっていただくとするのか、あるいは住民の方々がやっていこうとする姿に行政で支援していこうとするのか、様々なタイプがあると思うがいずれにしても項目ごとに住民と行政とのワークショップを通じて具体的な計画に落とし込んでいき、進捗率や進行度などで表し、30%しかいないとか80%までいったから別のテーマに移ろうといった具体的なものさしで掴んでみたらどうかと思う。資料3に文章でやったことが記載されているが、Q1についてどこまで進んでいるのかが分かりづらい点があるので、感覚でいいので数値化するとどこに力を入れているのかがわかりやすくなるのかと思いつつ先ほどの話を聞いていた。

(委員長) 地域ビジョンを策定されたご苦労、実際の経験からの示唆をいただいた。それに加え様々な施策あるいは住民自治組織・住民側の取り組みについてもある程度指標化をして進み具合がわかるようにしてはどうかという提案をいただいた。先ほどの地域ビジョンについて補足させていただくと、9月15日の合同研修会の際に越沢の代表者の方に発表いただいたのだが、単位自治組織であっても行政に頼るのではなく、まずは自分たちで考えて決め、出来ることをやっていくという具体的なビジョンを描いており、一つの大事なスタイルだと思った。藤島地区自治振興会は広域でのビジョンであるため、たくさんの意見を吸い上げながら優先順位をつけるという形なのかと思っている。私自身、朝日地域から個別に相談を受けているが、福祉センターや支え合いプランで把握した情報を共有財産にして、それを元に進めようという考えの地域もあるのではないかと。ほかに別の視点からのご意見・ご質問等があれば発言いただきたい。

(I委員) 資料1の3ページの図について、企業・NPO・ボランティア団体が住民自治組織を囲んでいるが、特に企業についてコミュニティ組織に関わっている事例があれば教えていただきたい。

(委員長) 推進計画を立てた時のイメージ図なので、入っていただきたいという思いも含

めて描かれたものだと考える。その後の実績や事例などあれば情報提供をお願いしたい。すべてが、コミュニティと一体という考えもあるかと思う。

(J 委員) 地域福祉のことになるが、三瀬地区で見守りの仕組みづくりにモデル的に取り組んでいただいた。地域の商店や金融機関も含め、認知症の方が見えられた時には声掛けする、包括支援センターに連絡する、よく買い物に来る人が来なくなったといった情報を地域の中で共有するという仕組みを作っている。また、六学区では認知症の支援事業を平成22年から続けており、学区の中にある企業からも認知症を理解していただき、そのような人を見かけた時にはコミセンなどに連絡をもらうといった仕組みを作っている。財源的なところというと、学区地区の企業や商売をしている方に賛助会員になっていただき、地域の活動へ協力してもらうといった動きもある。

(I 委員) 社会福祉協議会は福祉分野で様々な事例をお持ちだが、コミュニティ分野は未熟なため、今後ご指導いただければと思う。

(委員長) J委員が取り上げてくださった事例はコミュニティ組織の課題でもあるが、地域を面として捉えなくてはならない事業の際には面の中に商店・郵便局・銀行など身近なところが入ってくるし、財政的な協賛も必要になってくるかと思う。この話題は非常に大事なことで、今後どのように協働してもらえるのか、パートナーシップを結べるのか。

(I 委員) これから地域のコミュニティをどうするかといった話題を中心に広域コミュニティ組織の事務局長と話をしているが、青年を育てるということを中心軸においてコミュニティを築いていこうと考えている。青年が持っている夢を叶えてあげたいという思いがあるが、青年への支援や育成には資金力が必要となる。市の予算では出来るものと出来ないものがあるため、青年の主体性を伸ばしていくための財源確保について地域や企業からの支援が必要と思うが、勝手に金を出して良いのか伺いたい。

(委員長) 是非出していただければと思うが、これに関連して何か意見等があればいただきたい。

(K 委員) 予算がなければ何もできないという考えでは何もできないと思う。青年には最初から手を差し伸べるのではなく、自分たちがやりたいことを計画させ、予算を立てさせ、自ら助成金等を申請させるなど青年を育てていくことが大切と思う。私たちの地域では小さな組織が自分たちの力で物事を広めようと努力をしている。何かをする際に必要な財源について助成金を申請するなどの行動を自ら起こしていくことが大切と考える。

(委員長) 団体・対象・内容などによっても考えは異なってくると思うが、主体という言葉をどのように考えるか、また行政施策としてはどの段階でどのようにアプローチすることで地域がいきいきと住民が主体で活動できるのかといった問題提起をしていただいた。

(O 委員) 青年というキーワードから、大学を卒業して東京方面に就職するといった方が多数いるが、その中でも地域に関わりたい、地域の中の役割が欲しいと思っている若者は増えている。地域が具体的に青年からどのように関わってほしいと考えているのか、地域の問題も含めその情報をつかめる場所など、若者が入りやすい環境があれば良いと思った。

(委員長) 将来戻ってきたいと考えている若者も含め、力強い人材を輩出していくことは重要である一方で、青年が地域に関わるきっかけや多少の受け皿を与えたいという主体的に行動することは大事なことだと考える。

(D 委員) 私の住んでいる地域も過疎化・高齢化が進んでおり、そもそも青年がいない。70代の人を中心に活動している状況であるため、何か新しく始めるというよりは個人的には、再編・縮小・合理化といったことに関心がある。資料3のQ2では第二学区で学区内の組織の再編を検討しているとあるが、実際にどういう問題意識でこのような話が出てきて、どういうところまで進んでいるのかについてお聞きしたい。

(事務局) 第二学区の組織再編は、実際どのように取り組むかという部分までは見えてきていないが、役員の負担軽減を考え検討が始まっている。

(委員長) 先に第六学区が再編に取り組まれたことの波及効果と感じている。6その他に移るが、次回の委員会への提案など何かないか。地域コミュニティ推進計画は来年度で3年目、5年計画の中間点となるので、見直しが必要な部分はこの委員会で皆様から意見をいただいて検討するといった形になると思われる。ぜひ2月の委員会で意見をいただければと思う。その他、特に皆様からないようであれば協議を以上としたい。

(事務局) 委員長ありがとうございました。委員の皆様からも活発なご意見を頂戴し感謝申し上げます。次回の委員会の予定は、来年2月頃を予定しているのでお願いしたい。以上、第1回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会を閉会する。